

池原 昭治

さやまの今

奥富かかし祭り

奥富は、江戸時代のころより、川越藩の穀倉地帯としても有名で、奥富という地名の由来にも関わっているという説もあります。

市内でも有数の米どころ奥富は、この季節、田んぼは黄金色に広がり、たわわに実った稲穂の横には、真っ赤な曼珠沙華も咲き、そして、スズメ



たちを脅す案山子が立っています。



こんなふ

るさとの懐かしい原風景が今も奥富では見られます。山の神さまが案山子になつて田んぼを守るといわれ、古来より実りの秋の守護神として親しまれているのです。その象徴、「奥富かかし祭り」は、毎年10月の下旬から11月の上旬まで開催されます。

山田の中の一木足の案山子 天気の良いのに 蓑笠つけて...と、小学唱歌に歌われた案山子の顔は昔は、へのへのもへじでしたが、現代は、創意工夫がされてユニークな案山子が多く、七夕まつりのように、時事ニュースも取り上げられ、さまざまに案山子が100体以上も並びます。
笛や太鼓のお囃子が響きわたる中、秋の例大祭と共に心浮かれる奥富の秋の風物詩、ぜひ足を運んでみましょう。

市民の作品展

童句

童句創始者・土家由岐雄氏の八回忌を記念して行われた童句大会で、受賞した作品を紹介します。

特選

ところてん 突けばトロリン 滝になる

堀込 幸子

堪弁など 言えばつなずく 夏帽子

岸 新一郎

雨上がり 銀の鈴つけ くもの糸

藤井紀久子

献句

富士仰ぎ 手合わず童句 おきなのお忌

広沢 一岐

象の絵の エアメール来る 童句翁忌

渡川 誠

童句集の 受賞を供え 童句翁忌

高田 貞子

分かるかな？

今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真の拡大写真です。何ページの何の写真でしょうか？



正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課あてにお送りください。締切り10月31日(火・当日消印有効)

9月号の答え

9ページ「ひとまち写真館の流しそうめんの筒」の写真でした。



👁️で見る「さやま」

人口と世帯(市民課)	10月1日現在()内は前月比
住民基本台帳人口	外国人登録人口
男 80,057人 (-2人)	902人(-2人)
女 77,610人 (-12人)	1,162人(-3人)
合計 157,667人 (-14人)	2,064人(-5人)
世帯 62,634世帯(+56世帯)	1,507世帯(±0世帯)

9月の火災・救急件数(消防本部)
火災件数 10件(建物5件、車両3件、その他2件)
救急出動件数 456件(搬送人員427人)



公式モバイルサイトのQRコード
QRコードに対応した携帯電話で読み取ると公式モバイルサイトに簡単にアクセスできます

11月3日の文化の日を中心に、市民文化祭が公民館などを会場に開催され、多くの団体が、活動成果を発表します。3日には、会場を巡回する無料バスが運行されますので、色づく木々など秋の深まりを感じながら、芸術文化の秋を楽しんでみてはいかがでしょうか。



編集後記

昭和60年4月から始まった広報さやまのハロー仲間たちでは、これまで300以上のサークルを紹介してきました。スポーツや芸術活動はさまざまでも、それぞれ目標を持ち、楽しく活動している姿に、生涯学習の素晴らしさを感じます。